

農家意思決定の要因と重要度

寺島正彦 (長崎県総合農林試験場)

Masahiko TERASHIMA : Factors and Weight of Farmer's Decision-making

1. はじめに

農村では農業集落、農業就業人口、後継者の減少と高齢化・女性化の進行など担い手の変容が著しい。一方、農業の経営目標も所得の絶対的拡大から余暇・生きがい・健康管理・環境調和等のいわゆる「ゆとりある農業経営」志向への転換が進んでいる。とくに、集落リーダー、担い手となる農家や組織、高齢農業者、女性農業者の意識や価値観が地域農業展開の重要な要因となり、農業経営的にも量的評価に加え質的評価が求められる。今回、集落を単位とした水田農業の展開で中心的役割を果たしている集落リーダーの意識構造と、土地生産性や労働生産性の低い中山間地で、新たな作目の選択に取り組んだ高齢・女性グループ員の決断に至る意識や価値観を階層構造分析法、略称AHPを用いて分析した。

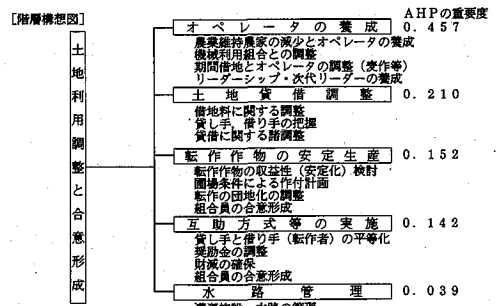
2. 集落リーダーの意識構造

集団的土地利用を進める場合、リーダーの価値観や意識が地域農業に強く影響しており、その役割と機能は極めて重要である。O市S地区の集落リーダーN氏が現在及び将来、土地利用調整と地域の合意を形成するために重要と考える項目は、オペレータなど担い手の養成 (AHPによる重要度0.457)、土地貸借の調整 (0.210)、転作作物の安定生産 (0.152)、互助方式等の実施 (0.142)、水路管理 (0.039) である。なお、重要度の合計は1.000である。「オペレータの養成」では第2図に見られるように、地域で農業を維持できる農家が減少しており、交換耕作や転作肩代わりを除き、すでに貸し地としている圃場や、5年後には水田 (夏作) の自己管理ができなくなる農家実数、圃場実面積、筆数等が4割程度あると考えており、地域農業の担い手育成が最も急を要する課題と位置づけている。また、次期リーダーの養成と資質向上も含まれる。このように、リーダーの意識と価値判断の要因及びその重みをAHPという共通の尺度で数量的に認識でき、リーダーの意識づけ・機能の継承・育成、地域農家の合意形成、集落の意思決定、関係機関の支援等の場面で活用できる。

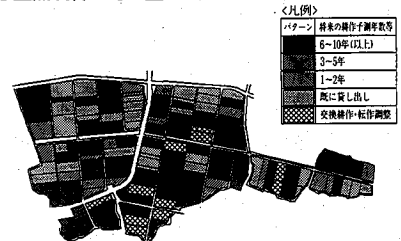
3. 高齢・女性グループ員の意思決定要因

中山間地の気象条件を利用して宿根かすみそう早出し栽培を導入したS町の高齢・女性グループ (5名) は、関係機関を交えた集落座談会などの中から組織づくりと作目選択を果たし、小規模ながら花き栽培の取り組みを着実に進めている。作目選択と導入に踏み切った農家内部の主な要因は、所得、投資 (資金)、需要量とその安定性等の収益性や経済性に関する事 (重要度0.381)、

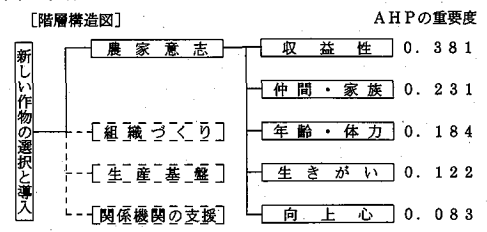
共に取り組もうとする仲間の存在や家族からの支援に關すること (0.231)、年齢や体力、作物栽培 (労働の強度や労働時間) に関する事 (0.184) 健康維持や興味、つきあい等の生きがいに関する事 (0.122)、経営改善の意欲、米からの脱却と新作物への期待など経営向上に関する事 (0.083) である。つまり、意思決定において、収益面を柱としながらも、年齢・体力に応じた労働の時間や強度、仲間との協力や家族からの支援、生きがいなど、経済面以外の要因を取り込んだ判断がなされている。土地基盤条件や農業労働力条件に恵まれない中山間地農業では、自然立地条件など地域特性の活用や組織づくり、さらに関係機関の支援等の条件整備とともに、農家経営や生活という農家内部要因から発生する農家の意向や意思を考慮する必要がある。



第1図 集落リーダーが捉える土地利用調整と合意形成に関する重点項目とその重み (O市S地区)



第2図 集落リーダーが捉える水田 (圃場単位) 維持の将来予測



第3図 「宿根かすみそう早出し栽培」導入での農家の意志決定要因とその重み (S町)